

# 高い技術力で信頼される工作機械の周辺機器メーカー

株式会社カワタテック 奈良県桜井市

株式会社カワタテックは、旋盤の加工物を固定させるチャックの専門メーカーとして70有余年の歴史を持つ。同社は、高い技術開発力・製造能力・品質維持力を有し、高効率・高品質生産を常に実現しており、世界中で高く評価されている。現在、同社のチャックは用途別に特化した大型特殊品が主流であり（大きい製品は直径3メートル）、国内市場の70~80%を占めている。工作機械高速化の流れのなか、開発・設計から製造まで一貫して自社で行うことで、ユーザーからのスピード化の要求に応えている。また、ISO9001取得や経営革新計画承認などにも見られるように革新的経営を続けている。

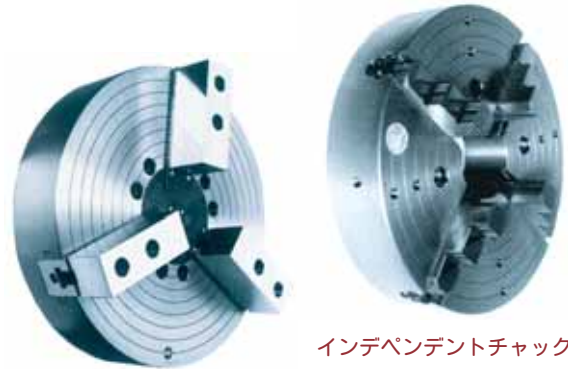
## 会社概要



会社名：株式会社カワタテック  
 所在地：奈良県桜井市橋本 48-1  
 電話：0744-45-0369  
 F A X：0744-45-0364  
 創業：昭和8年9月  
 設立：昭和36年2月  
 代表者：代表取締役 川田 利明  
 資本金：3,000万円  
 従業員：48名  
 事業：工作機械周辺機器の製造販売  
 URL：<http://www.kawatatec.co.jp/>

## 70有余年の歴史あるチャックメーカー

昭和8年、川田社長の実父・川田利次氏が旋盤用チャック製造のため、東大阪市にサンエックス工機製作所を創立。その工場が第二次世界大戦で空襲に遭い、終戦の昭和20年に母親の出里である奈良県桜井市に移転。昭和36年、川田鉄工株式会社に法人化、そして平成4年11月に株式会社カワタテックに社名変更した。平成8年、本社事務所を現在地に移転、平成13年7月ISO9001認証取得、そして平成16年3月経営革新計画が承認されるなど、堅実かつ革新的経営を続けている。



3ツメ油圧チャック

インデペンデントチャック

## 高い技術開発力・高い製造能力

同社は、昭和8年以来工作機械の周辺機器であるチャックの設計・製造から販売・サービスまで全ての機能を社内で有し、顧客のニーズに合った製品を完全に実現できる体制を整えている。また、EU諸国をはじめ、中国などアジア諸国にも製品を輸出し、海外においてもその技術力は高く評価されている。

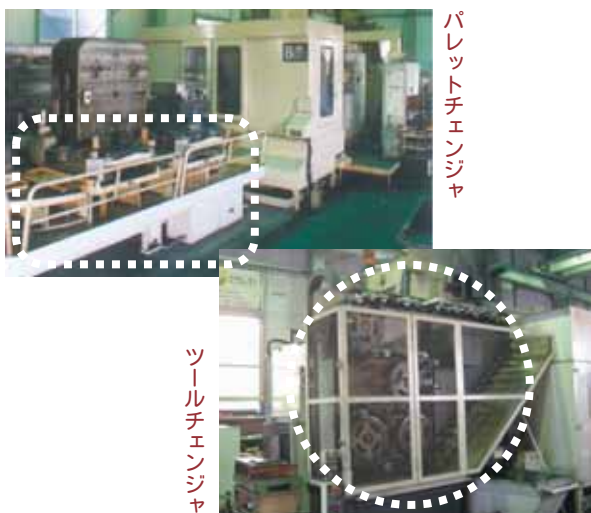
同社の売上の6割を占めるのは、旋盤の加工物を固定させるチャックである。そのチャックは工作機械の周辺機器でありながら、安全性・精度の点において、特に高品質を要求される製品である。



本社・社屋

同社は、創業時から各種チャックを製造してきたが、昭和40年から大型チャックに特化した開発・製造を行い、現在では国内で使用されている大型チャックの70～80%に同社の商標である「**N O B E L**」が表示されている。

近年、日本の工作機械は高機能化、高性能化しており、当然その流れは周辺機器にも影響を及ぼしている。同社では、工作機械メーカーのニーズに合った高機能で高性能な周辺機器であるパレットチェンジャー（Pallet changer：工作機器に加工する工作物を乗せて順次送り出すことが可能な台状機器、写真参照）、ツールチェンジャー（Tool changer：工作機器へ大型ドリル刃などを自動的に送り出す機器、写真参照）も製造し、国内の工作機械メーカーへ販売している。



同社の高い技術開発力から生まれた製品群は、国内外の数々の工作機械メーカーに採用されており、業界の牽引役を務めている。日本の工作機械メーカーは、常に世界でもトップ水準にあるため、周辺機器メーカーである同社に対して厳しい水準を要求している。同社の製造・品質管理体制は、最新機械設備と自社製省力化機器により、高効率・高品質生産を実現している。

### 特殊品の製造体制を整備

川田社長は、「わが社の製品は特殊品で、一品料理です」と話すように、同社の製品は他社の小



情報の一元化された設計室

型チャックのように量産化できない特殊品ばかりである。それぞれに仕様が違う特殊品は、設計や原価計算に相当手間がかかる。そこで、川田社長は、図面管理や原価管理をパソコンで一元管理を行い、社員の情報共有化を図った。このシステム革新により、「これまで取引先に納品した全製品の設計図や加工履歴を瞬時に見ることができ、使用した部品など簡単に検索できる。また、これまで手間取っていた受注先からの見積り依頼に対してもスムーズな対応が可能になった」と、川田社長は自信を持って話す。創業以来培ってきた技術力では高い評価を得ていた同社ではあるが、情報の共有化で作業効率がアップし、競争力をさらに強化した。

### 顧客満足の向上を目指す企業

近年、EU諸国では同社との競合製品である特殊品の量産化による価格引き下げの動きがあり、また、韓国・台湾においても相当技術力が向上してきており、性能・価格において競争が一段と激化している。川田社長は「今後も、わが社の経営方針である『在庫最少、納期最短の生産体制を維持し、利益を追求する』を全社員に周知徹底し、国内外の競合企業に先行する」と力強く語る。

同社は、これまでに蓄積してきた技術開発力、製造能力および品質維持力をさらに高め、中堅企業の強みである“柔軟な対応能力”を活用し、一層の顧客満足の向上を目指している。（武村）